

小笠原村立母島中学校令和6年度授業改善推進プラン

小笠原村立母島中学校
校長 井口 寛隆

(1) 令和5年度の取り組み状況に関する総括

①各教科において以下の課題が見られた。棒グラフの緑は小笠原村中学校全体、青は母島中学校、正答率グラフ内にあるオレンジの点は全国平均を表している。

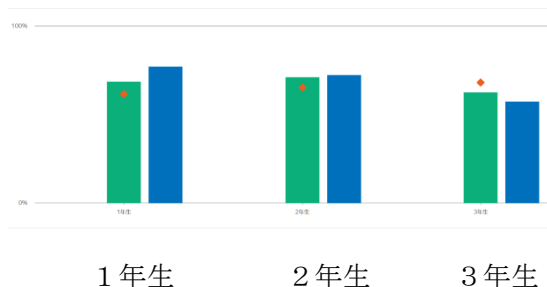
国語

1年生の国語は全国平均よりも上回る領域が多く良好な状況であり、小学校で習ったことが定着しているようである。他の領域と比較し、「話すこと・聞くこと」に関してはほぼ全国平均となっているが、さらに高みを旨したい領域である。特に注目すべき点は「漢字を書く」「文章を書く」内容においては全国平均と比較しても同程度、もしくは下回る内容もあるため、課題として捉える必要がある。

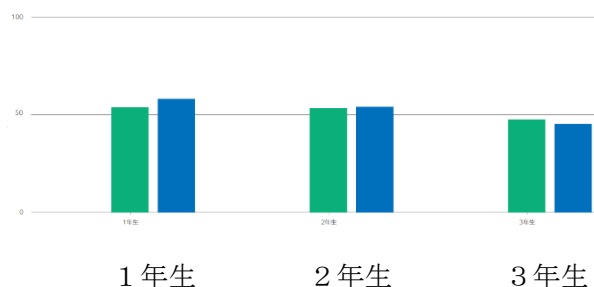
2年生の国語を見ると、全国平均より上回り、おおむね良好な状況である。昨年度の課題であった「漢字を書く」に関しては全国平均よりも上回る成果となったが、「文学的な文章の内容を読み取る」に関しては引き続き課題である。

3年生の国語を見ると、全国平均よりも下回り、課題がある状況である。特に書く領域については前年度からの課題であるため対策が必要である。

【正答率】



【標準スコア】



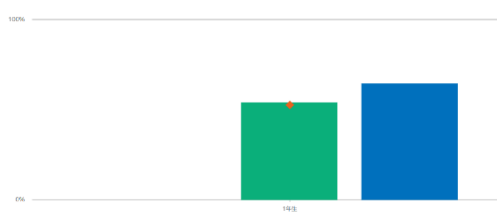
社会

1年生社会を見ると、すべての領域において全国平均よりも上回っており、良好な状況といえる。日本の政治に関しては正答率 100%と憲法を含む政治の領域に関して関心が高いことが分かる結果となっている。

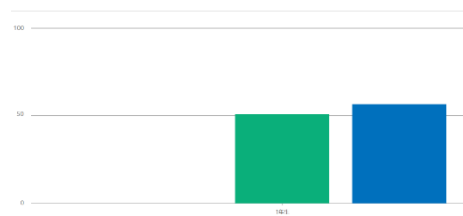
2年生社会を見ると、全国平均とほぼ同程度であった。ただし、地理領域においては、全国平均を下回る結果となっており、課題があるといえる。

3年生社会を見ると、全国平均を少し下回り、課題があるといえる。前年度は歴史の領域に関して課題があったが全校平均と同程度になっている。

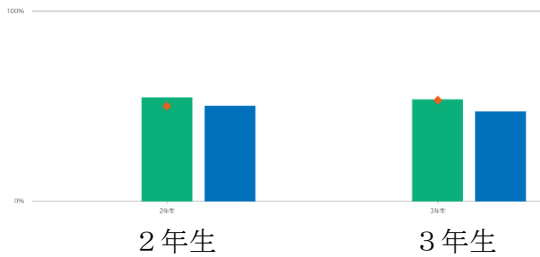
【1年 正答率】



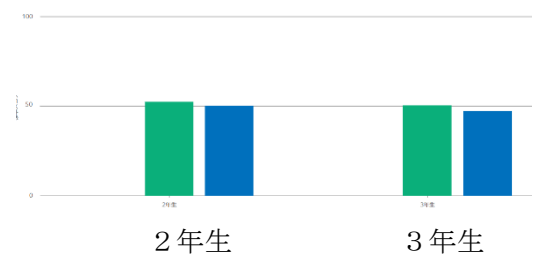
【1年 標準スコア】



【2・3年 正答率（地理・歴史）】



【2・3年 標準スコア（地理・歴史）】



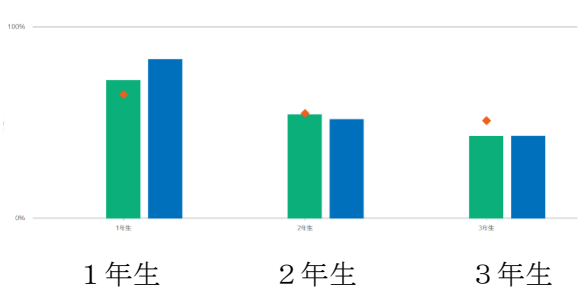
数学

1年生の数学を見ると、全国平均よりも上回る領域がほとんどであり、良好な状況であるが、データの活用の領域に関しては、特にグラフの読み取りに関して課題があるため、他の得意領域とバランスを取りながら取り組む必要がある。

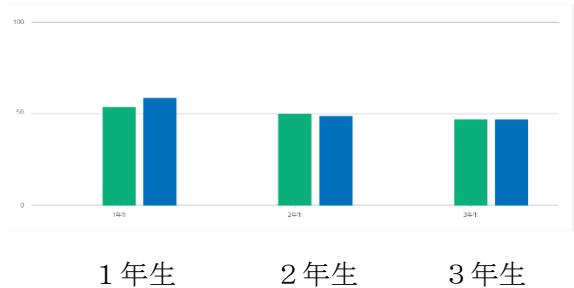
2年生数学を見ると、全国平均とほぼ同程度となっているが、データの活用の領域については、全国平均を下回っており、課題である。

3年生数学を見ると、全国平均を下回っており、課題がある。特に証明の内容については問題文を読むという苦手意識もあり、正答率が低い。しかし、前年度の課題であったデータの活用の領域については全国平均とほぼ同程度となっている。

【正答率】



【標準スコア】



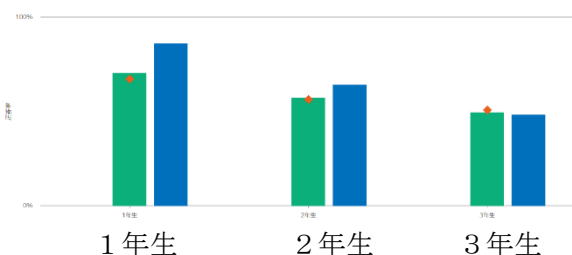
理科

1年生理科を見ると、すべての領域において全国平均より上回っており、良好な状況である。特に物質・エネルギーの領域内の「電気の利用」においては全国的に正答率が低い中で大きく上回る結果となっている。

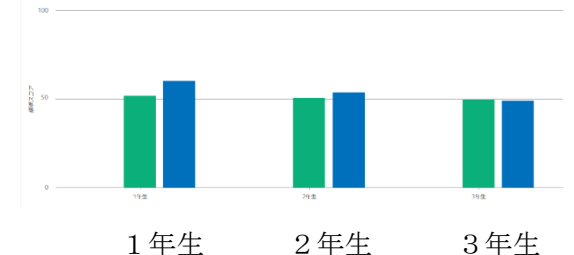
2年生理科を見ると、全国平均と同程度となっており、良好である。生命や地球に関しては全国平均を上回る一方、粒子の領域である「水溶液の性質」の内容に関しては全国平均を下回る結果となったため、課題である。

3年生理科を見ると、全国平均を下回った。活用に関しては課題があるが、前年度課題であった知識・技能については全国平均と同程度となっている。

【正答率】



【標準スコア】

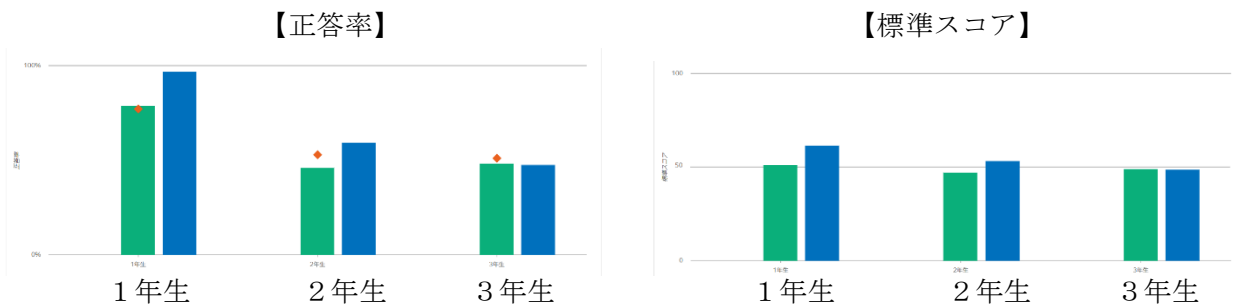


英語

1年生英語Aを見ると、全国平均を上回り、たいへん良好な状況であり、小学校から継続して取り組んでいた「英会話の時間」の成果も見られる。すべての領域において正答率90%を超えている。

2年生英語Aを見ると、全国平均より上回っており、良好である。また、前年度の課題であった「英作文」についても全国平均よりも大きく上回っている。ただし、リスニングについては全国平均を下回る結果となり課題がある。

3年生英語Aを見ると、全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況である。書くことに関しては全国平均を上回っているが、リスニングに関しては課題がある。



以上の各教科の概観から、どの教科においても以下の3点が本校生徒の課題であると考えられる。

- ・題意を読み取る力
- ・自分の考えや思いを言語活動で表す力
- ・各教科での基礎的・基本的な知識の確実な定着

② 令和6年度村学力調査における生活行動調査の結果より

「朝食をきちんと食べている」「夕食をきちんと食べている」「朝は、時刻を決めて起きている」といった、基本的な生活習慣を守ることはできている。

また、学習に対する姿勢については、「計画を立てて、勉強している」「勉強にパソコン（インターネット）を利用している」など、高い数値となっており、学習に対する姿勢は前向きである。

一方で、地域的環境による学習習慣の定着の難しさが、昨年度に引き続き見られた。「新聞記事を読んでいる」「勉強に図書館を利用している」「参考書や問題集などを使って、勉強している」「通信添削を利用して、勉強している」という質問項目において、どの学年でも否定的な回答が多く見られる。しかし、今年度から放課後の学習活動で各教科担当の教員に質問をしに行ったり、自習教室で学習したりと昨年度から学習に対する意欲は向上している。

(2) 授業改善のための取組について

小笠原村教育委員会教育目標実現のための授業改善に関する取組の重点

○ 授業UDの徹底

→ 「わかる」から「できる」を**体感する授業**の推進

① 課題の要因

(1) で挙げた課題の要因としては、以下の2点が考えられる。

- ・島しょという地域的環境による学習習慣の定着の難しさ
- ・読書習慣の希薄さ

学習習慣の定着の難しさについては、家庭学習よりも地域の活動（運動クラブなど）に時間を費やしている背景がある。地域の活動に真剣に取り組みながらも計画的に学習に取り組めるよう指導・支援していくことが必要である。また、島内には学習塾がなく、通信添削を利用している生徒も少ない。だからこそ少人数指導の強みを生かし、今後、さらに学校からの支援・指導を充実させ、家庭での学習習慣が定着するだけでなく質の高い自主学習が行えるような手だてを講じる必要がある。

また、読書習慣についても、生徒が落ち着いて読書に取り組める環境づくりや様々な本に触れられる機会の提供を、学校が主導して行っていくことが重要であると考えられる。

② 学校全体で取り組む事項

学習指導の充実を図るための方策

【授業UD】

全ての生徒にとって「わかる」から「できる」授業を実施するために、ICTを積極的に活用し、視覚的に分かりやすい授業を構成するようにする。また、生徒の身近な興味や関心に訴えかけるような学習課題を設定し、生徒が意欲的に学習に取り組めるようにするとともに、それらを家庭学習や家庭での話題に還元することができるようにする。

教室を整理整頓し、前黒板の左右にある掲示板は、全学年統一した内容のものだけを決められた位置に配置した。これにより授業中に不必要な情報が生徒の視界に入らないようになり、生徒の集中力を高めている。

学校生活の見通しをもたせるために全学年で1日の予定を後ろ黒板に掲示し、かつ連絡ノートに翌日分を記入させている。

指示の出し方を具体的にし、どこまで伝わっているか確認することを心掛けている。

視覚的な手掛かりを示すため、板書には「学習目標」「めあて」など大切なところを示すマークを教科の実態に合わせて用いている。

分かりやすいワークシートを用意するために、母島中学校はA4またはA3の用紙に統一して使用している。

【家庭学習の内容】

生徒が意欲的に取り組むことができる家庭学習の内容を設定する。また、国語科における新出漢字、数学科における計算の技能などが確実に定着するよう、基礎的・基本的な内容の

家庭学習を繰り返し行えるようにする。また、家庭学習ノート（自主学習ノート）の取り組みを行っている。朝学活の際に担任が回収し、自主学習の内容をチェックしてアドバイスしている。提出回数などは学年の現状に合わせ、生徒の継続する意欲を高めるよう提示している。

【朝読書の時間の設定】

ベーシックタイムや朝会・集会の時間以外の朝の時間は、朝読書を実施している。各学級で、生徒一人一人が落ち着いて読書をする時間を確保する。朝読書を通して家庭での読書時間につなげ、ひいては一人で学習に取り組む時間の確保につなげていく。

【ベーシックタイムの実施】

8：00～8：10の10分間、主に水曜日と金曜日に実施している。国語・社会・数学・理科・英語の5教科を1年間に順番に割り当て、基礎基本の定着を図っている。

【放課後の学習活動】

放課後、生徒に学習する場所と時間を設けている。授業で理解できなかったことや、家庭学習に取り組む中で、分からなかったことを質問するという内容で、生徒が主体的に学ぼうとする意欲を尊重する機会となっている。

「指導と評価の一体化」の実現を図るための方策

【振り返りの指導】

毎回の授業で、学習内容を振り返る時間を設定する。その際、グーグルスプレッドシートを使用し、生徒の振り返りに対して教師が次回への取組につながるコメントなどを毎回打ち込み、返却している。また、単元テストの振り返り活動を通して、各単元の学習内容を着実に定着できるようにする。振り返りから学習の理解度などの生徒の実態を把握し、次の指導へと生かしていく。また、都教委訪問による研修を実施し、更に信頼される指導と評価の一体化を進めていく。

義務教育9年間の学びの連続性を意識した小中一貫教育推進のための方策

【校内研究の取組み】

母島小中学校では、小中合同で校内研究に取り組んでいる。昨年度までの研究テーマであった「基礎学力向上のための、少人数指導の工夫」から得た成果をさらに発展させ、これからの母島の生徒が身に付けてほしい力として、「自分の考えや思いを相手に伝えるように表現できる母島っ子」を研究主題に設定した。少人数である母島の特色を生かした指導を行い、村学力調査で課題として表面化した「書く」「話す」「聞く」などの言語活動を中心に、課題を解決するための知識や技能を養い、得た知識・技能を活用しながら自分の考えや思いを表現できる生徒の育成を行っていく。

【ホワイトボードやタイマーの活用】

各教室にホワイトボードを生徒数分用意している。またタイマーを各教室や特別教室に1台用意している。ホワイトボードを使用し各授業で発表活動を多くすることにより、説明する力や表現する力の向上を目指している。また、タイマーで時間を示した指導を行うことで、生徒が見通しをもって活動に取り組めるようにする。

【GIGAスクール構想，ICT端末の活用について】

母島小学校，中学校で同じタブレット端末を使用している。以下のことを実践している。

- ・各教科の振り返りはスプレッドシートを使用している。
- ・各教科でミライシードのドリルを活用した演習を行っている。
- ・各教科で上記に記載したホワイトボード以外にタブレット端末のホワイトボードアプリやスライドを利用した意見交換を場面に応じて行っている。
- ・技術や美術，音楽ではタブレットを使用して作品などを記録している。
- ・数学科ではGRAPE Sを使用し，各学年の関数の単元ではグラフ作成を行っている。
- ・生徒会選挙のポスターを生徒がタブレットを利用し作成している。
- ・教員同士でジャムボードを利用して研究授業の協議会を行った。生徒に使うように指示するだけでなく，教員も活用していくことにより，タブレット端末の扱い方の理解を高めている。（今後はジャムボードではなくスライドを使用する）
- ・感染症対策等で欠席している生徒で，オンライン授業を希望する生徒がいた場合は，オンライン授業を実施している。
- ・オンラインでの小笠原中学校との交流を実施している。